

令和5年度第1回
広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会
議事要旨

1 開催日時

令和5年9月14日（木） 13時30分～14時50分

2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席委員

委員5名中5名出席

市原則之委員（座長）、服部宏治委員、名越基康委員、花本幸次委員、大岡和之委員

4 会議内容

(1) 開会

(2) 市民局長あいさつ

(3) 議事

ア 座長の選出について

イ 広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会について

ウ 広島市における競技人口減少種目の現状及び課題について

(4) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

0人（報道関係者を除く。）

7 会議資料

- ・広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会・・・・・・・・資料1
- ・広島市中学校運動部活動在籍数・・・・・・・・資料2
- ・令和4年度 広島市中学校体育連盟 部活動状況・・・・・・・・資料3
- ・広島市スポーツ施設一覧表・・・・・・・・資料4
- ・広島市のスポーツ施設の配置図・・・・・・・・資料5
- ・広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会開催要綱・・・参考資料1
- ・広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会の
公開に関する取扱要領・・・参考資料2
- ・広島市総合計画（スポーツの振興部分のみ抜粋）・・・・参考資料3

8 内容

【事務局】

定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度第1回広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会を開催します。本日は、お忙しい中、本研究会に出席していただきありがとうございます。私は、市民局文化スポーツ部スポーツ振興課課長補佐の島廣です。

この度は、本研究会開設後の初会合でございますので、本研究会の座長が選出されるまでの間、会議の進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、本日の会議終了時間は、15時30分を予定しております。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、先程申し上げましたとおり、本日の研究会は、初めての会合ですので、お手元の委員名簿に沿って、御就任いただきました委員の皆様を御紹介いたします。

- ・広島市スポーツ振興アドバイザー、元日本オリンピック委員会(JOC)副会長・専務理事の市原則之委員です。
- ・広島国際大学健康スポーツ学部学部長の服部宏治委員です。
- ・広島市剣道連盟理事長の名越基康委員です。
- ・広島市柔道連盟理事長の花本幸次委員です。
- ・広島市スポーツ協会事業担当次長の大岡和之委員です。

次に、事務局職員を紹介させていただきます。

- ・市民局 村上局長です。
- ・市民局文化スポーツ部 高山部長です。
- ・市民局文化スポーツ部スポーツ振興課 三原課長です。

続きまして、市民局長の村上が御挨拶申し上げます。

【市民局長】

皆様こんにちは。市民局長の村上と申します。第1回、広島市における競技人口減少等への対応に向けた研究会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

まずは、この研究会の委員への御就任を快く引き受けていただきまして、また本日お忙しい中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、本市には、野球、サッカー、バスケットボール、こういった地方都市にしては、非常に多くのプロスポーツチームが存在してしまっていて、そういった競技には、非常に多くの子供達、一般の市民の方々が、日常生活の中で関わっているという状況がございます。

その一方で、競技を行う機会や場所の確保が困難になるという理由で、競技力の低下や競技人口の減少といった傾向が顕著になっている競技種目もあります。このままでは、競技種目の多様性が損なわれるだけでなく、競技文化そのものの喪失にもつながることを危惧しています。

本市は今、新しい「スポーツ王国広島」の実現を目指してしまっていて、様々な取組を行っているところですが、この新しい「スポーツ王国広島」というのは、子供から高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで、全ての市民がその思いに沿って、様々なスポーツと関わることができ、全ての市民がいきいきと健康的に暮らし、活気にあふれて平和を体感できるまちという状態を考えています。

新しい「スポーツ王国広島」を実現する上で、競技人口減少種目等への対応は非常に重要な課題と考えています。そこで、この研究会では、こうした種目について、効果的な対応策について委員の皆様から貴重な、忌憚のない御意見、御提案を賜りたいと存じております。

本日は、限られた時間の中でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

申し訳ございませんが、市民局長は公務の都合により、ここで退席させていただきます。

それではここで、配付物の確認をさせていただきます。お手元の次第に本日の配付物が記載されていますので、ご覧ください。上から順に、配席図、委員名簿、続いて、資料が1から5までございます。最後に参考資料1に開催要綱、参考資料2に公開に関する取扱要領、参考資料3に広島市総合計画があります。不足がある場合は手を挙げてお知らせください。

本研究会は、参考資料1、参考資料2の要綱、要領に従って進めてまいります。

本日の議事は、(1)座長の選出について、(2)広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会について、(3)広島市における競技人口減少種目の現状及び課題についての三つです。

議事 1 座長の選出について

【事務局】

まず、座長の選出についてです。本研究会の座長は、広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会開催要綱第4条第1項において、委員の互選によって定めることとなっております。委員の方からの御推薦、御意見等がございましたらお願いいたします。

【大岡委員】

よろしいでしょうか。この研究会の会議を調整し、また、進行役になっていただくのは、これまで日本オリンピック委員会（JOC）専務理事として、競技スポーツまたスポーツの振興にご尽力いただいています、また、現在は広島市スポーツ振興アドバイザーとして、広島市のスポーツに関して精通していらっしゃる市原委員が適任ではないかと思しますので、私の方から市原委員を推薦させていただきます。

【事務局】

ただいま、大岡委員から座長は市原委員にという御推薦がございましたが、他に御意見はございますでしょうか。御意見がなければ、座長は市原委員ということで承認いただけますでしょうか。（拍手）ありがとうございます。それでは、市原座長は前の席へ移動をお願いします。それでは、市原座長に一言御挨拶いただきたいと思います。市原座長をお願いします。

【市原座長】

ご紹介いただきました市原でございます。今広島市のスポーツ振興アドバイザーを仰せつかっておりますが、現在、東京に住んでいまして、スポーツの関わりは、主として、一般社団法人日本トップリーグ連携機構の専務理事として、9の団体ボール競技に所属する、12のトップリーグの活性化事業に取り組んでおります。その他、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟の副会長や、障がい者スポーツ関係において、パラリンピックやスペシャルオリンピックスなどにも関わりを持って活動しております。

最近東京の仲間から、昨年の広島の国体の成績が、少年の部で47都道府県中46位、少年男子においては47位という成績を知り、「市原さんどうなっているの広島は」としきりに言われております。広島はスポーツ県と言われながらも、まさかそういうふうになっているとは私もつゆ知らず、成年の部が二十何位というのはともかくとして、広島の将来を担う若いアスリートが、日本で一番どん尻に甘んじているようでダメだと嘆かわしく危機感を持ちました。

そうした時、この度の、競技人口が減少著しい競技の柔道、剣道を中心に、新しい「スポーツ王国広島」を目指す、誠にタイムリーな研究会を立ち上げて頂いたこと、私ども広島のスポート関係者としても大変喜ばしくも有り難く思っている次第であります。

それでは、座長のご指名を頂きましたので、僭越ながらも皆様のご協力を頂きながらこの会の趣旨に沿って、進めて参りますのでどうぞよろしくをお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。それでは、これから先の議事進行は市原座長をお願いします。市原座長、よろしくをお願いします。

議事 2 広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会について

議事 3 広島市における競技人口減少種目の現状及び課題について

【市原座長】

承知しました。それでは、早速議事に入ります。

まず、事務局から議事 2、3 の関連資料の説明をいただき、その後、皆様からご質問、ご意見をいただく形で進めてまいりたいと思います。ご説明をお願いします。

【事務局】

(本研究会の目的について)

それでは、議題 2 及び議題 3 の関係資料につきまして、私からご説明させていただきます。まず資料 1、タイトルが「広島市における競技人口減少種目等への対応に向けた研究会」です。資料左側の (1) の目的ですが、この研究会の目的は、現在、競技人口が減少している種目については、競技を行う機会や場所の確保が困難になることなどにより、競技活動や競技力の維持・向上が図られなくなり、競技人口の減少が一層加速するといった事態が発生しています。こうした事態を放置すれば、競技種目の多様性を損なうだけでなく、競技文化そのものの喪失をも招くことになり、本市が目指す新しい「スポーツ王国広島」の実現にとって、大きな障害となると考えています。このため、今後競技人口が減少すると見込まれる種目について、外部の有識者等を入れた研究会を開催し、こうした事態への効果的な対応策を検討することとするものでございます。

(本研究会の進め方について)

本研究会の進め方についてですが、この研究会は、年度内に 3～4 回程度の開催を考えています。また、各競技等について、現状や課題を整理して、その対策としての取組について、ソフト面、ハード面での御意見、御提言をいただければと考えています。その取組は、ソフト面及びハード面、また、すぐにでも着手できる取組、時間がかかる取組などいろいろあるかと思いますが、ここでの御意見、御提言を踏まえまして、できるだけ来年度の予算に反映させていきたいと考えています。

(新しい「スポーツ王国広島」について)

先ほどの研究会の目的のところ、本市が目指す新しい「スポーツ王国広島」というものを申し上げたところですが、その考え方について御説明したいと思います。

資料 1 の右半分ですね、2 の広島市におけるスポーツ振興の基本的な考え方について。現在本市の総合計画の中で、基本理念として『新しい「スポーツ王国広島」を目指して～スポーツが好き 仲間が好き 広島が好き～』を掲げています。

資料の下の図にありますように、従来のスポーツ王国広島は、トップチームであるとか、トップアスリート、強豪校が、全国で活躍していい成績を残すと。スポーツの目的は、勝つためとか、競技力の向上が特に着目されていたのではないかと思います。

それに対して、新しい「スポーツ王国広島」というのは、対象は全ての市民であると。子供から高齢者、障害者や健常者、初心者からトップアスリートまで。そして、そのスポーツの目的は、試合に勝つ、競技力の向上だけではなく、スポーツはそれ自体が趣味になったり、生きがいになったりだとか、あるいは自身の健康増進に役に立つと。さらには自分だけでなく、仲間づくりであったり、地域コミュニティの活性化にも資すると。さらにみんながスポーツに関わることによって、まちづくり全体の活性化にもつながるものではないかというふうに思っています。

こうした考えの下、全ての市民が、自分がやりたいスポーツに関わるができる、そういう環境づくりが、ハード面、ソフト面、両面において大事なのではないかと考えています。これを実現するために、本研究会においていろいろなことを議論していただけたらと思います。

(検討内容について)

次に資料の1の(2)の検討内容についてですが、大きく三つに分けています。まず、競技活動の維持、これは競技場所の確保を含むに關することですが、それぞれのスポーツについて、競技活動が維持されるためには、ある程度の競技人口というのが必要であると考えています。また、スポーツをする人が、自身が希望する競技を始めるもしくは継続するためには、競技活動ができる場所の確保が必要であると考えています。この場所というのは、ハード面とソフト面があると思いますが、競技を行うことができる施設のハード面は当然要りますし、柔道教室や剣道教室など教えてくれる人がいる場というソフト的な場所というのも必要だと思っています。この両面について検討する必要があると考えています。

次に競技力の維持・向上(指導者の確保を含む)に關することですが、スポーツをする人が競技を続ける中で、単に競技をするというのではなく、大会等で結果を残すといった目標を達成するためには、やはり競技力を向上させる必要があります。そのためには、そうした観点からのジュニア選手の育成強化、あるいは優秀な指導者の確保・育成などが重要になると考えています。

次に、その他競技種目の多様性の確保に關することですが、スポーツには、様々な競技種目がございます、競技人口が多いもの少ないものがあります。そうした中において、競技人口が少ないものについても、それぞれのスポーツを競技文化として残して、多様性を確保することが大事だと考えています。また、様々な競技がある中で、スポーツをする人が、それぞれが希望する競技・スポーツに關わることができるような環境づくりが大事だと考えています。

こうしたことを検討内容として掲げさせていただいています。

(研究対象とする競技について)

次に資料の1の(3)の対象とする競技ですが、今回、柔道連盟の方と剣道連盟の方に出席していただいています。競技人口が減少している種目であるとか、元々競技人口が少ないものとかいろいろあると思いますが、その中でも、柔道、剣道は、日本古来のスポーツであって、中学校の部活動等で減少していたりだとか、スポーツ少年団の数も減少傾向にありまして、さらなる競技人口の減少が懸念される種目であるということで、モデル的にこの二つを選定しました。他の競技種目についても、指導者であるとか、競技人口であるとか、場所の確保とか、同じような課題があるかと思えます。このため、ここで得た研究成果は、横展開をしていくように考えています。まずは、この二つについて、深く研究、現状・課題を整理して対応策を考えていくというふうに考えています。その資料の下に、中学校の部活動に在籍する生徒数の現状というのがあります。

(中学校運動部活動在籍数について)

資料を1枚めくっていただいて、資料2の1がございます。こちらは、広島市内の中学校、これは市立だけでなく国立や私立等も全て含めたものの運動部活動の在籍者数になっています。データは平成10年度から令和4年度までありますが、この間で一番在籍者数が多かったのは平成11年度になります。ここで合計で2万7,613人いました。これが令和4年度については、2万46人と、比較しますと27パーセント減少という実態になっています。

平成11年度に一番多かった競技は、バスケットボール、その次にソフトテニス、卓球となっております。令和4年度に一番多いのはバスケットボール、これは変わっていないですね。その次がソフトテニスと続いています。3番目に多いのが、バドミントンですが、このバドミントンだけですね、平成11年度に比べて唯一部活の在籍者数が増加しているものになります。それ以外は全て減少傾向にあるという状況です。

この資料のグラフについて、真ん中あたりに空白がありますが、在籍者数が1,000人未満の競技がいくつかあります。次のページをめくっていただいて、この部分を拡大したのがこの資料2の2になります。この中でも、今回対象にさせていただいた剣道と柔道。この青いグ

ラフが剣道の在籍者数の推移、そして赤いのが柔道の在籍者数の推移になっています。

まず剣道を見てみますと、平成11年度には995人で、現在は437人になっています。10年前を見ますとその中間ぐらいの628人となっています。だんだん、右肩下がりになっている状況でございます。柔道に関しましても、平成11年度は262人、そして10年前は139人、令和4年度は66人となっています。こちらも減少傾向が見られるという状況になっています。

(中学校運動部活動について)

もう1枚めくっていただいて資料3になります。こちらは広島市内にある中学校の部活動の状況でございます。左側に区の名前が書いてありまして、その次に番号が書いてあります。番号が振ってあるのが市立の中学校でございまして、「私」と書いてあるのが、私立の中学校、「県」や「国」と書いてあるのが、県立や国立の中学校ということになります。それぞれの競技につきまして、☆印があるのが、部活動が存在する学校になります。▲がですね、特別引率と書かれていますが、部活動は存在しないのですが、その学校の生徒が部活動ではないところで競技を続けていて、大会があるときはその学校の代表として参加しているというものでございます。個人種目が多い状況になっています。

この資料の分析ですが、柔道、剣道を見るとですね、数が、全ての学校に☆印が付いているわけではなくて、例えば、市立の中学校は全部で63校ありますが、柔道部に関しては現在5校となっています。剣道部に関しては24校あります。この2競技について、小学生が中学校に行って部活動をしようと思ったとしても、柔道についてはそもそも部活動がなかったりするので始めるきっかけがないと。小学校で町道場とかで柔道をしていても、中学校で部活動が無ければ続けることができない、そういう課題があるのかなと思っています。最近、子供の野球離れが言われていますが、それでも野球部というのはこの表で見ますと、市立の中学校で63校中56校にあります。同じように減少といっても、野球であれば中学校に行っても多くの学校で競技を続けることができるという違いがあるのかなと思っています。

今回、競技人口が減少しているというのは、元々人口減少が影響しているということも考えられますが、その人口減少はこれからさらに進んでいく可能性がありますので、これに関しては、そういった点を踏まえながら、どうやって子供達が競技を継続することができる、もしくは始めることができる、自分達が好きな種目にですね、触れることができるようにするのが課題だと考えています。

(中学校運動部活動への加入率について)

資料1に戻りまして、資料1の左側の一番下に参考を書かせてもらっています。運動部活動への加入率についてですが、中学生全員の生徒総数に対して運動部活動に入っている割合ですね、これが10年間の平均で見ますと大体64パーセントぐらいになっています。ただ、コロナ禍もあると思いますが、直近の令和4年度では、加入率が59パーセントと減少している状況でございます。割合的にも少し減っているという状況です。

(広島市のスポーツ施設について)

続きまして、資料4について御説明させていただきます。こちらは広島市スポーツ施設の一覧表でございます。広島市にある施設の施設名であるとか、開設年月日を書いたもの、それに伴って経過年数がどれくらい経っているかを記載しています。さらに、各施設について、どんな競技をすることができるかを●で印を付けています。

表の中で、上の七つの施設は、観戦型と分類しており、プロチームなどが試合をするなど、観戦型に位置付けているものです。その下の活動型というのが市民が日頃からスポーツをする場所であったり、アマチュアのスポーツ大会が開催されるようなところを示しています。

この施設ですが、広島市は、昭和55年4月1日に政令指定都市になりまして、当初は7区、

そして五日市町が合併して8区なっていますが、8区それぞれにスポーツセンターが設置されています。さらに平成6年10月に広島でアジア大会がございました。このアジア大会をきっかけにスポーツ施設ができることがよくありますが、広島広域公園であるとか総合屋内プール、こうした施設はアジア大会をきっかけにできています。

スポーツ施設は運動公園にもたくさんございまして、今回、公園の中のスポーツ施設については、有料のものだけ記載させていただいていますが、他にも無料で使えるスポーツ施設も多数ございます。

さらにスポーツをする場所としては、学校ですね、学校体育施設開放事業というのをスポーツ振興課でやっております、学校のグラウンドや体育館を学校の運営に支障のない範囲内で地域の方に使ってもらったりする事業もしています。

こういったところが、市民の方々がスポーツをやる場所となっています。1枚めくっていただきまして、資料5ですね、こちらが広島市のスポーツ施設の配置図になっています。

（広島市のスポーツ施設について）

資料の説明は以上になりますが、今回、やはり論点になるのは、競技人口に関することであるとか、指導者に関する事、競技場所に関する事、この競技場所というのは、冒頭でも申し上げましたが、ハード面に関するもの、競技を習うソフト面での場所というのも考えられます。これらをマッチングするような取組も今後考えていけるのではないかと考えています。

こうしたことを踏まえながら、皆様の御意見をいただければと思っています。私からの説明は以上になります。

【市原座長】

只今、事務局から資料について説明がありましたが、皆さんからご意見等ありましたらお願いいたします。

【花本委員】

柔道の方ですが、剣道も含めてですね、広島に武道館が無いというのが大きな問題ではないかなと。他県、中国地方を見てもですね、広島県だけが武道館が無い。他のところは、広島県以外は皆武道館を持たれて、二つも三つもあるところもあります、広島県だけが全然無い。もちろん広島市に活動できる場所はあるんですけども、多目的という形で使われていると。僕達ですね、僕は65になるんですけども、若い頃、高校の頃は、県立体育館とあって、武道館がありましたよね、剣道場、柔道場と。非常に使い勝手がよく、そしてそこで活動することもできたと思います。それによって、警察とか一般の人、又は高校生、中学生がそこで活動し、いろいろな先輩、または後輩に指導をします。というような状況があったんですけども、今はそういう場を作ればいいんですけども、どこかを借りてやらなければいけない。今、市に親子の柔道教室ということでやっておりますが、今は刑務所の道場が新しくできたから、そこを使わせてもらっていますが、そういうときにも武道館があれば、そこを使えばいいと。という思いが非常に強いです。前々から、今の会長、前会長、みんなお願いを市にしていたわけですが、なかなか実現ができなかったということがあります。是非この機にそういう武道館建設をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市原座長】

今武道館の話が出ましたので、事務局にお尋ねします。現在、政令指定都市で、武道館を保有している都市は何市ぐらいあるか分かりますでしょうか。

【事務局】

いくつかの政令市については、県と市、それぞれに武道館があると認識しております。5か

6 かぐらいと思いますが、正確なものは今手元にありません。

【市原座長】

それでは、参考までに次回までに調べていただけますでしょうか。

【事務局】

かしこまりました。

【市原座長】

その他、ご意見いかがですか。事務局からの説明では、ソフト、ハードに分けて表現されましたが、競技人口に関すること、指導者に関すること、競技場に関することの三つの課題がありました。これら3点はそれぞれ密接な関わりがあると思いますので、委員の皆さんに順にお話を伺ってみたいと思います。まず剣道連盟では競技者、指導者、競技場の現状、課題などはどう感じておられますでしょうか。率直なところのご意見をいただきたいと思います。

【名越委員】

施設についてはですね、剣道場という床張りの場所じゃないとできないので、特定されてきます。総合的な体育館では足を痛める。ということがありまして、なかなか施設は、どこに行ってもできるというわけではないですよ、現状としては。スポーツセンターでも南区と安佐南区に武道場があるんですね、他はないですね。小学校や中学校の体育館でやっているというのが現状ですね。広島市の場合は。県立体育館に武道場があるんですけども、あれは剣道だけでなしに、いろいろなスポーツをやりますから、柔道もやるんですけども、場所が取れないんです。花本委員が言われたように、前は常設の柔道場、剣道場があって、誰でも行って練習ができたんですよ。仕事帰りに行ってできた。我々子供も連れてやってもいいと。そういうのがあったので、競技人口もそうですし、盛んになったんですけど、そういうところがないですね。もう特定の道場、小学校とか中学校とかやっているところじゃないとできないというのが剣道ですね、施設の的には。それで、指導者的には、これも特殊な競技、剣道競技ですから、継続的にやっていないと指導はできないんです、現実的には。言葉だけじゃなくて、指導者と選手が、教える人と教えてもらう人が同じ土俵でやるので、元気でないとできない。そういう意味でいうと、剣道については、高齢者が一生懸命やっていますので、広島市の場合はですね、非常にいい状況にはあります。若手の指導者が仕事なんかがあってなかなかできないという状況はあります。

【市原座長】

どうもありがとうございました。柔道は先ほどの花本さんのお話でいいですかね。

【花本委員】

はい。

【市原座長】

ありがとうございます。先ほど課題として武道館建設の話が出ましたが、次に服部委員から、大学スポーツの活動等についてご意見をいただければと思います。

【服部委員】

先日、9月の最初に、日本体育スポーツ健康学会というのがありまして、ちょうどヒットしているのですが、中学生年代における柔道人口減少についてということで、日本中学校体育連盟の加盟数に着目した発表がありました。そこで、生徒数が多い10県、それから生徒数が少

ない10県の報告があったんですが、青森、岩手、秋田、山形、茨城、群馬、富山のこの7県は、柔道の生徒数が一貫してそんなに減少していないと。逆に減少していると書いてあったのが東京、長野、大阪、広島、沖縄と。この違いは何なのか。そこまでの研究発表はなかったのですが、やはり現状把握として今広島がどういう状況にあるのか。先ほどちょっと話がありましたが、小学校までは道場とか剣道クラブ、柔道クラブみたいなところでやっていたのが、中学校に行くと、多分、部活が無くて続けられない、そのまま道場に行こうと思っても、わざわざ道場までの送り迎えができないみたい。そういうことも踏まえて、地域の道場の、そういったことをする場所はどうか変化してきているのか。増えているのか減っているのかとか。そこで教える指導者の人達は、どのくらいいるのかとか。広島の中でも地域性があるのかもしれないし、そういったデータみたいなのが、もし取れば、もう少し理由とか原因というものははっきりしてくるのではないかと思います。単純な思いですが、中学校の武道が必修化して、体育の授業の中にも入るようになったんですけども、多分ですが、柔道とか剣道を専門にしている先生がいないんじゃないか、逆に言えば、体育の教員を目指す、柔道を専門にしている人、剣道を専門にしている人があまりそっちの方に行っていないということが、もしかしたらあるんじゃないかと、今ちょっと勝手に思っているだけなんですけども。そういったところも指導者不足、中学校の受け皿として、そういった専門の柔道や剣道の楽しさとか魅力を伝えきれていないようなところも原因としてあるのかなと思います。ちょっと勝手な想像なんですけども。データが無いので。

【市原座長】

ありがとうございます。今、お聞きする中で大まかには、ソフトの面として、子供達が競技を始め、それを続けていく流れのシステムがどこかで分断されている。というのが一点で。

それからハードの面は、やはり競技場の問題といったところだと思います。

それからヒューマンの面では、今お話のあった、指導者やマイスターですか、学校の教師を含め競技専門に指導する人がいなくなっているという現状ですね。

次に、大岡委員、スポーツセンター等の施設やスポーツ少年団など、広く市民のスポーツに関わっておられますが、その辺りのお話をお聞かせください。

【大岡委員】

私ども広島市スポーツ協会は、52の加盟団体のうち、競技団体は40団体となっています。加えて、スポーツ少年団の登録事務等も行っていますので、その視点からお話をさせていただきます。

今回、柔道と剣道に特化して申し上げますと、柔道と剣道のスポーツ少年団の団数や登録団員数が落ち込んでいる状況が見えます。その要因の一つとして、日本スポーツ少年団が指導者に公認指導者資格を取得させるように制度を変えてきており、その受講や経費などが指導者の負担となり、スポーツ少年団の指導者が減少していることが考えられます。また、少子化の影響もあって団員が集まらないということから、苦渋の決断で団を解散されてしまった状況もあると伺っています。従来は家の近くに道場があり、剣道や柔道などを始めるケースが多くみられましたが、道場の減少により、サッカーやバスケットボールなどの盛んな競技を始めることが多くみられる状況です。

また、学校運動部活動での柔道と剣道の減少が進んでいるのは、指導者の確保が難しい状況もあるかと思います。今、委員の皆さんからもありましたが、学校運動部活動の指導者の中で、剣道や柔道を専科で教えることができる先生がなかなかおられないというのも一つの要因かなと思います。

もう一つ、広島市内のスポーツ施設を管理運営している観点で申し上げますと、市内8区のスポーツセンターに体育室がありますが、競技団体の大会や地域のスポーツ活動などで多くの利用希望をいただいておりますので、皆様の希望どおりに活動場所が確保できていないという

のが実情かと感じています。このことから、ハード面でも不足していると考えています。

私ども広島市スポーツ協会としては、指導者の養成や選手の発掘や育成についても事業を実施しておりますので、競技団体の皆様と一緒に何か良い策を模索できればと考えています。

【市原座長】

ありがとうございます。いろいろな論点がありますが、まず子供達が競技を始めるきっかけなど、こういったところは、柔道、剣道は変わってきていますか。

【花本委員】

柔道の場合には、最近では親がやっているからやる、または近所にいる友達がやっているからやるというパターンで、小学校は。昔に比べて少なくなっていますが、そんなに減少はしていないです。中学校になると、親も仕事が忙しい、連れて行くのが大変だということで、今まで通っていたスポーツ少年団や道場をやめて、他のクラブに入るといったパターンが多いんじゃないかと。先ほどからいろいろな先生から出ているように、専門の指導者が中学校でいない。教員がいない。県の教育委員会にも、何らかで全国で1位になった選手は教員にしますよというのをやってもらったんですけども、実際には違うクラブを持たされていると。何なんだというようなこともあります。ですから、本当に熱意をもってやる教員がたくさんいれば、もっと増えるだろうと思います。僕も10年ほど前ではやっていましたが、やっぱりだんだん社会の情勢が変わってきたのと、いろいろ学校現場も難しくなってきたのではないかと、いろいろな問題点が出てきているように思います。

【市原座長】

ありがとうございます。今、プロの選手にしろ、どの競技でも世界のトップで戦う選手は、皆、低学年から競技を始めており、子供の頃から始めないと世界のトップに行けないというような状況になってきています。参考までに、私が、オリンピック委員会の強化担当の時分、1964年の東京のオリンピックで29個のメダルを獲得したのが、32年後の1996年のアトランタで14個に落ちたんですね。これは大変だと、国はスポーツ振興基本計画を策定し、JOCはこれを受けて国際競技力向上戦略の「JOCゴールドプラン」を立ち上げ、私はその委員長に指名されました。結果的には8年後の2004年のアテネで37個のメダルを獲得し、2021年の東京の58個に繋がっています。「JOCゴールドプラン」の内容は、ソフト面で、子供の頃からナショナル選手までの「一貫指導システム」の構築、ハード面ではトップアスリートが競い合う「ナショナルトレーニングセンターの建設」、ヒューマン面では「ナショナルコーチアカデミー」を立ち上げトップ選手を指導する指導者の資格認定制度など実施しました。

これが、先ほどからの論点ですが、一貫指導で子供の頃から始めた競技をずっと継続させるシステムをつくり。そして、JOCのナショナルトレーニングセンターのような競技場（武道場）を求め。加えて、ナショナルコーチアカデミーのように、オリンピックで金メダルを取った選手でも我流でなく、ちゃんと資格を取ってきっちり教える指導者の育成。

この三点をシステム化し途切れず継続させていくことが課題だと思います。

次に、スポーツ少年団の活動でお尋ねします。

スポーツ少年団は全ての競技が総合的に活動しているのですか。或いは種目としては。

【大岡委員】

スポーツ少年団は、かなり多種目に渡っています。ただ、座長がおっしゃったように、一貫指導ができていないかということ、難しい状況にあると考えています。例えば、バレーボールのスポーツ少年団は小・中学校まで登録団数は多いですが、そのスポーツ少年団ですべて活動する

状況ではなく、高校進学時にはインターハイなどを目指して強豪校に選手が集まるなど、一貫指導はできていないと感じています。中には、競技団体が中心となって一貫指導に取り組んでおられるところもありますが、活動場所が確保できないという問題もあると認識しています。スポーツ少年団は、スポーツを始めるきっかけとして敷居をできるだけ低くして取り組んでいますが、団員が将来に渡って競技を続けていくのかということになると、現状ではなかなか難しい状況にあると感じています。

【市原座長】

ありがとうございます。次に服部先生に大学スポーツについてお尋ねします。大学生は大学に入ってスポーツを始めるとか、或いは高校まではやっていたけど大学に入ったらもうスポーツしないとか、いろいろなケースがあると思いますが、傾向は今どんな感じですかね。

【服部委員】

私実感しているのは、大学に入ったらもういいかという、いわゆる燃え尽き症候群ではないですけど、高校の時まではバリバリにやってインターハイにも出たような選手が、大学に入ったらもういいです、もう燃え尽きましたじゃないですけど、という学生はちらほらいますね。そのまま続ければ、インカレとかにも行けそうな選手でも、さっと手を引いてしまう。現状はそうです。先ほども一貫指導体制の話もありましたが、いわゆるスポーツ王国広島の過去と現在ということで、資料1に示されていますが、昔ながらのピラミッド型のトップを育てれば底辺が広がるとか、ボトムアップかトップダウンか、底辺を広げてトップを育てるのか、いうところから、連邦型の選手養成というか、スポーツのいろいろな目的に応じた養成をしていくんだというふうに、これは全国的に、一貫してそういうふうになっていると思うんですけども、そういう意味でいうと、ある意味一貫指導でやっていた選手が、例えば一度そこからドロップアウトしてしまったというときに、戻って来れない可能性も出てくるわけで、そういう意味で私は勝手に一貫指導体制に対して「多貫」というか、ある程度大きな軸は一本でいいと思うんですけども、それからいろいろと枝分かれをして、選手でやっていて怪我をしてちょっとリタイアしても、しばらくしてまたそこに戻って来れるような。その間は、趣味として、あるいは生きがいとして、ちょっと楽な形で続けながら、また競技に戻っていくとか、そういったいろいろな枝分かれをしていけるような環境が必要なんじゃないかな、一度外れてしまった子達がまた戻ってくれるような環境づくりというか、そういう意味では一貫指導体制の中にも、多貫というか、そういったこともこれから考えていく必要が、この減少傾向を食い止める方策としては必要になってくるのではないかと思います。

【市原座長】

ありがとうございます。いろいろな論点の中で、子供が競技を始めるきっかけや、継続しない理由、あるいは指導者の問題ですかね。指導者をどういうふうに育て確保するのか、指導者の発掘や育成の問題も重要ですね。

それと何ととっても活動する場所の確保が今後早急な課題になってくるのではないかと思います。

そして、一度ドロップアウトした子をすくい上げるために競技間の連携なども必要になってきますね。等々、そこらも含めて皆さん何かご意見はいかがでしょう。

剣道では指導者の資格認定などはどうなっていますかね。

【名越委員】

剣道は特別な資格はないんですけども、全日本剣道連盟が段位認定しています。それから、錬士、教士、範士と称号認定をしています。錬士以上ですと、指導していいよという感じにはなっていますが、それを取らなくても3段、4段の先生が子供を教えるというのはありま

すから、全然問題はありません。剣道は、幼少年については礼儀作法が主ですから、誰でもできると思います。

剣道を始めるきっかけというのは、兄弟がやっているとか、親がやっていたとか、同級生がやっているから誘われて行ったと、そういうのでやるんですけど、現実的にはやはり少なくなっています。どうするかというのは今からの課題だと考えます。

【市原座長】

それと、学校を出て社会人になっても柔道、剣道の競技を続けるには、実業団、警察などがありますよね。今、そういう門戸は広がっているのか、或いは縮まっているのでしょうか。例えば実業団のチームが少なくなっていると耳にしておりますが。

【花本委員】

少ないですね。柔道の場合は、警察、刑務所とかそういう特殊なところはありますけども、実業団として活動しているところは県内にはほとんどないです。

【市原座長】

他の競技も含めて全体的に考えないといけないのが、現在、広島ではプロスポーツや都市型のアーバンスポーツといった人気スポーツに傾注しているような傾向が感じられますね。スポーツは単に勝ち負けだけが価値ではなく、スポーツが持つ力をツーリズムで、他の分野と連携させて行こうという新たなスポーツ界の動きがあります。柔道や剣道はインテグリティの高いスポーツですから、その特性から子供達は競技を通じて日本の伝統である礼節文化を醸成させ次世代に継承していくことができますね。そういうことを制度として学校スポーツに取り込み、健全な青少年の育成を学校教育で育むのが本来の学校スポーツであったように感じますが。そうした意味において今後、柔道、剣道だけでなく空手道や弓道など「道」の付くスポーツが連携し日本の礼節文化を継承するためにも武道館は必要ですね。連携すれば総需要が高まり、それぞれの競技人口増に結びつくと思います。

ここで、事務局の方から何か、今後の課題として皆さんに聞いてみたいことはありますか。

【事務局】

競技人口だとか、指導者だとか、場所等の問題がある中で、特に指導者を、競技力を向上させるために発掘だとか、育成だとか、そういう部分は、それぞれの競技団体で、実際にどのようにされていますでしょうか。

【花本委員】

柔道の方ですけども、僕ももうだいぶ年配になりましたから、後輩とか教え子とかに、出稽古をせんと試合には出れないよということで進めています。今、C級、B級。A級の指導者資格は他のところに県外に行って取らないといけません。B級までは県内で取れますから、どんどん行って応募して、人数的にはたくさん受けてます。ですから、その面ではいい状況にあると、柔道はそういう状況です。

【名越委員】

剣道は、全日本剣道連盟が定めている指導方針、剣道の基本理念、これが基本になって、これに基づく指導でないとダメなので、指導者講習会というのを年2回ぐらいやって、段位に関わらず、その講習を受けてくださいと。それで、基本的な方針に基づいて教えてくださいとやっています。技量の差はありますけども。

【市原座長】

本年に入り、経済産業省とスポーツ庁が連携して、「スポーツ未来開拓会議」を月3回程度開催しスポーツの産業化を目指しています。その中でスポーツと観光が取り上げられております。現在の広島は外国人の観光客が多く、彼らの興味は、先ず、原爆ドームの平和公園で、次は宮島のようなようです。それから京都に寄るパターンが多いようです。つまり、日本の伝統文化に接する目的の観光客が殆どのように見受けられます。広島市はこうしたインバウンドを取り込むために武道館をつくり、柔道や剣道や弓道などを体験させながら、附属施設でお花を生けたり、お茶を嗜んだり日本文化に触れる機会をつくり、スポーツが観光に寄与できればと、色々なアイデアが浮かんできますね。今もお話に出ていたように、我々スポーツ人や組織は考えが固すぎるんじゃないかと。総てルールにはめなければいけないとルールに固執して、一歩も踏み出せないケースが多く見受けられますね。

「求同求異」という言葉がありますが、これは同じことを求めるんだけど異なった方法でアプローチするということですが、スポーツ界はアイデアに乏しいようにも感じます。学校で英語やフランス語を教えても身の入らない生徒も、e スポーツを始めたなら、必要に応じ英語を覚えなければならないので、一生懸命英語の勉強をやり始めたところある学校の先生が言っていました。スポーツ団体も今までのやり方でこっちにおいでと誘うのではなく、総てに工夫を凝らした柔軟な姿勢での対応が大切であると思います。

また、行政に至っても時代の流れや国際化に敏感な対応が望まれます。今、体育館や競技場は学校の体育をする施設であって、観客を入れるスポーツ施設はアリーナとスタジアムという呼称に変えようという動きが出始めています。アリーナとスタジアムにはエンタメ仕様が施され、お金を払って観る人に喜びと満足を与え、しっかりと入場料を得ることによってスポーツ団体自体の財政も潤いスポーツ振興を高める。こうしたスポーツの産業化を国は進めています。未だそういう考えが地方自治体に伝わっていないように感じています。

競技団体もそうした時代の流れを察知し、不易の部分はしっかり守りながら、時代に添って流行を追っていくことが肝要だと思います。

その他ご意見はいかがですか。大岡委員何かあれば宜しくお願い致します。

【大岡委員】

スポーツ協会として施設を管理しているという話をしましたが、地域の身近なスポーツ施設は学校体育施設だと思います。しかしながら、地域の皆さんがスポーツ活動を行う際には、スポーツセンターの体育室を希望されます。理由としては、スポーツセンターには冷暖房施設や駐車場などが整備されていることが考えられます。話が最初に立ち返りますが、地域の皆さんのスポーツ活動の希望に加え、いろいろな競技団体から体育室の利用希望をいただく状況で利用調整をしておりますので、希望どおりに場所を供給できない状況にあります。学校体育施設では、先ほど剣道の例で出ておりましたが、床面が板張りのところもあれば、そうでないところもあることから、できる競技とできない競技とができてしまうと考えます。また、昨今の猛暑で熱中症の対策も考えれば、競技団体としても地域のスポーツ活動にしても、空調管理ができるスポーツセンターを望まれるという実情もあります。今後の気候変動のことも考えていけば、空調設備の整備も考えていく必要があるのかなと思っています。

【市原座長】

現在、広島市の競技施設は非常に少ない中、広島県の国体選手の7割は広島市で抱えている現状のようです。今後、スポーツ王国広島を目指すならば、広島県全体の連携が不可欠だと思います。特に競技施設に関しては、各市町村がそれぞれ個別な競技施設を有し競技別拠点のネットワークを構築し、例えば柔道は、度々日本代表が合宿練習をする東広島市を拠点とする柔道場をつくるか、実は、先般、東広島市の高垣市長を訪ね、東広島市は「酒都」ですから、お酒は神事に通じますので、酒屋さんと協賛し弓道競技の拠点をと薦めました。

また、世界遺産で日本3景の一つである美しい宮島の海をトライアスロンの拠点にと、廿日

市市長に進言して幾多の国際試合を誘致しました。

また、八千代辺りの山間部では射撃とか、県全体でスポーツの総需要を高めて、あとは高いところから低いところに水が流れるが如く、広島市に受け皿の「ハイパフォーマンススポーツセンター」のようなものをつくり、新しい「スポーツ王国」つくりを進めればと思います。

そういう意味から、柔道だけ、剣道だけ、広島だけに限定せず、多くの競技種目を県全体で支えるネットワークづくりの方策を今後考えるべきじゃないかなと思うんですけどね。

その点いかがでしょうか。服部先生。

【服部委員】

そうですね、今、中学校の部活動の地域移行というのが国の方からおりてきて、そういう中で、「道」と呼ばれるようなものを指導できる人達をどう確保していくかということになると、私なんかはもっと大学で部活とかを専門にやっている柔道なら柔道部の部員であるとか、剣道部員が、そういう総合型地域スポーツクラブに出向いてジュニアを教える、指導者がいなければ。お兄ちゃん、お姉ちゃんに教わって、それで子供が大きくなって、そのやっている中学校とか、大学とかに行くみたい。今、外部指導者とか、部活動指導員なんて制度も出てきているので、うまくそういうことを、そんなのを使って、大学で部員でやっているような人達も活用できるようなシステムができたらいんじゃないかなと思います。

【市原座長】

今日は第1回ですから、いろいろな話を出してもらって、第2回目までそれを整理して、新しい課題に繋がればと思います。従って、皆さん忌憚のないざっくばらんなお話をいただければと思います。いかがですか花本委員。

【花本委員】

今言われたように大学から今も来ていただいていますし、OBも来ていただいていますし、中学校の場合僕が教えていたからまた来てくれるんですけども、他のところ東広島でも今小学生が盛んですから、そういうところも自分の元道場やスポーツ少年団にくるんじゃないかなと思います。ただ、市立中学校の場合がですね、どうしても本当に減少しているので、そういう活動がなされていないような気がします。ですから、誰かそういうふう呼び寄せる人が一人でもいれば、何人か行くだろうし、それならあそこに行ってみようと、僕も元の道場に行ってみようかなと、いうようないいムードが出てくれば、もっともっと広がっていくのではないかなと思います。

【名越委員】

剣道は、町の道場というか、小学校中学校の体育館を利用して、各地域の人がいろいろやってるんですよ。今、中学校で剣道競技をやっているところは少ないので、一気に減りますね。私も小学校で今指導をしています、小学校でやっていたのに、中学校に行ったら剣道部が無いので、卓球をしたり、バドミントンをしたりする。もったいない。というような状況で減ってきている。

【市原座長】

剣道は用具が非常に高いですしね。柔道は柔道着だけ、サッカーや卓球、バドミントンなど用具にあまりお金がかからない競技に比べれば、剣道は用具負担の問題がありますね。

前の話に戻りますが、私は、東京から月に1回新幹線で広島市に参りますが、新幹線で広島に降りる人の8割ぐらいは外国人で、そのうちの8割ぐらいは欧米人です。彼等は何に興味をもって広島（日本）を訪れるかと尋ねると、日本各地の伝統文化に触れてみたいようでした。着物を着てみたい、茶室でお茶を嗜みたい、陶芸や盆栽にも興味があり、剣道や弓も引いてみ

たいと多岐にわたる日本文化に触れる機会を求めていました。こういうインバウンドは多く京都はもとより金沢など非常に人気が高いようです。

広島は今や観光都市ですから、新たな観光資源を生み出すため武道館を建設し、その付属設備に庭園や池、茶室や陶芸や着物教室等々の日本文化の根城としインバウンドを引き込む。これこそスポーツツーリズムで地方創生になるのではないかと思います。

余談ですが、武道の中でも弓道は非常に人気があるのですね。東京で、袴をはいた女性が弓を持った姿で電車に乗っているのをよく見ます。そういう意味で、「道」の付くスポーツの振興には武道場造りは不可欠ですね。

【名越委員】

外国人の人はやりたいんです。やりたいんですが、どうすりゃいいですかという、機会が与えられていないのが現実だと思います。実際にやりよっての人もおられますけど、少ないです。

【市原座長】

防具を付けなくても気軽にできる遊びのチャンバラじゃないですけどね。

当初は子供達が簡単に入り込めるような工夫が必要ですね。

なんでも道具を揃えないと出来ないというのでは。

他にご意見いかがですか。

【大岡委員】

一つよろしいでしょうか。令和5年度から日本中学校体育連盟が全国中学校体育大会の参加資格を見直し、クラブチームも出場できるようになりました。広島市中学校総合体育大会にも柔道や剣道で地域クラブとして道場単位で参加できるようになったと思いますが、学校部活動や道場に影響はあるのでしょうか。これまでは、道場などで活動していても中学校進学時に部活動が無ければ他の競技に流出していくということがあったかもしれませんが、これから道場単位で大会などに参加できることが根付いてくると、道場で練習した人が、中学校の部活動に入らなくても柔道や剣道を続けていけると考えますが、いかがでしょうか。

【花本委員】

その傾向はあります。今年度は団体も組めた地域もありますし、今までは引率特例で、保護者が連れて行った面がありますけども、そういうのも各道場、スポーツ少年団から、その道場の責任者が連れて行くという形もできましたし、今から中学校はそっちの方が多くなるのではないかと思います。ただ、中学校でも増やしてほしいなど。ただ、剣道の場合だと怪我が少ないですね、柔道は管理者というか、校長先生が非常に気にされるんですよ怪我を。ですから、指導者がしっかり見て、怪我が無いようにやればいいんですけども、教員は何かあったら動かなければならないなど、ずっと部活を見ることのできない状況があるんじゃないかと。僕は今は部活専門で見えていますから、ずっと2時間、3時間見ますけども。そういうところも学校の中身をどこかで変えていかなければいけないと思います。

【市原座長】

ご承知の通り、今、学校は教師の働き方改革に取り組み大変な状態ですね。本業以外は極力アウトソーシングしようと、特にクラブ部活動の指導者の負担を軽減させる目的に、外部コーチ導入の動きが出始めています。ただ、外部コーチといっても誰でもいいというわけではなくて、指導者としてしっかりした人でなければならない。それには、教員資格を有する人や、競技団体の指導者資格を持った人が必要でなかなか適任者が見つからない。

しかし、日本人は資格を持つことに意義と喜びを感じモチベーションを高めますので、日本スポーツ協会の上級コーチ資格や日本オリンピック委員会のナショナルコーチ資格のような広

島独自の資格制度を導入し、競技普及のマイスターなどを養成することも一考ではと思います。

【名越委員】

先ほどの大岡委員が言われたのも、学校に剣道部が無いので地域でやっているというので、先生に申請もらいなさいと助言して、試合に出ましたね。ですから、出れるんです。

【大岡委員】

今回の広島市中学校総合体育大会の結果を見ると、バドミントン・新体操・バレーボールなどでもクラブチームが出場しておりました。そのようなことから、学校運動部活動在籍数の折れ線グラフは下降気味ではありましたが、競技人口全体で考えれば、急激な下降は見られないのではないかと考えます。ただし、部活動に選択肢があれば競技人口も増えるかと考えますので、学校運動部活動への取組みも考えていかないといけないのかなと思います。

【市原座長】

本日はいろいろなお話もありましたが第1回目の会ですから、この辺りで事務局から何かご意見があればお願いします。

【事務局】

今日はいろいろと御意見をいただきありがとうございました。施設の話がございました。広島市にはスポーツセンター等がありますけども、実際には、場所を確保するのが難しいと、新たな施設の確保も必要なんじゃないかといった視点の御意見もあったかと思います。

あと、地域移行については、指導者の確保というのが実際に難しく、学校が部活を外に出そうと思っても、実際に受けてくれる人、指導者がなかなかいないというのが課題になってまして、その辺もこの研究会の中で、ここで出た成果がですね、地域移行にも役立つようにできたらいいなと思っています。

【市原座長】

ありがとうございます。その他いろいろと課題があると思いますが、本日の話の中からまた新しい課題が生まれ次に繋がることだと思います。

本日の会議はこれで終わらせてもらいたいと思いますが、他にご意見はいかがでしょうか。特にないようですから、ここで事務局にお返ししますのでよろしくお願いします。

【事務局】

市原座長ありがとうございました。本日は、皆様方には貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日の議事録は作成次第、委員の皆様にご追って送付させていただきますので、その際は内容を御確認ください。また、次回の研究会のテーマについては本日の議論を踏まえて事務局で整理させていただきますので、引き続きご協力よろしくお願いします。それまでに御意見、御提案などがあれば、お気軽にスポーツ振興課までお寄せください。それでは、定刻より若干早くなりましたが、以上を持ちまして、本日の研究会を終了いたします。皆様、本日はありがとうございました。